

第 11 回

村民との意見交換会及び議会報告会

報 告 書

2019 年 1 月

読 谷 村 議 会

第 11 回村民との意見交換会及び議会報告会

総務常任委員会

津波古菊江、上地 榮、山内政徳、伊佐眞武、當間良史、松田昌邦

対象：自主防災組織自治会及び当該組織検討中の自治会

自主防災組織（長浜・渡具知・大添・都屋・楚辺）

検討中自治会（大湾・大木・伊良皆・横田・高志保・瀬名波）

日時：平成 30 年 11 月 9 日（金）午前 10 時

場所：全員協議会室 参加者：10 名

テーマ：自主防災組織に関する現状と課題

1、自主防災組織を設置するためには防災意識の啓発が重要であり、DVD の活用や婦人・若者などに消火の方法をはじめ地震津波の被害の状況の講座が必要ではないか

（回答）現在でも啓発活動は随時行っているのが、「防災意識啓発」の一環として講座等の開催も含め対処したい。

2、食糧備蓄については、標準が 1 万 8 千食（人口の 20 分の 1 × 3 食 × 3 日間）であるが、現状は 2, 500 食しかない。それぞれの自主防災組織における食糧備蓄も検討する必要があるか。（防災倉庫等）

（回答）食糧備蓄の有り方については現在修正中の「読谷村地域防災計画」の中で併行して検討します。

3、自治会への未加入者もこの機会に防災組織の設置を通して各自治会組織の強化につながるのではないか。

（回答）防災を通して地域が協力することは未加入者の自治会への理解も深まると考えます。

4、要援護者（弱者対策）については、福祉課、社協、地域の見守り隊と連携を日頃から行う必要があると考えるが

(回答) 各地域の見守り隊(各地域支えあい活動委員会)の定期的な会議(月1回程度)に福祉課、社会福祉協議会も参加し課題などの共有も行っていきます。また、要援護者の名簿(同意済)の提供も自治会に行っています。

5、地震及び津波や台風により停電が生じて、防災活動に支障をきたすので、自家発電機の設置も将来は考えないといけないのではないか。

(回答) 避難所への発電機等の設置の有り方については現在修正中の「読谷村地域防災計画」と併行して検討します。

6、自主防災活動は区民運動会でのバケツリレーを組み入れたり、他のレク活動とも連結して多くの区民の参加しやすい工夫も必要ではないか。

(回答) 自主防災会の訓練は多くの方々に参加してもらえるよう毎年工夫しながら実施しており、今後も可能な限り支援します。

7、その他 台風等により破損した自治会管理の防犯灯の補修などについては行政の方で対応できないか。

(回答) これまで通り自治会で対応をお願いしたい。

8、防災資機材の充実のための予算が少ないので増額ができないか。

(回答) 読谷村自主防災会育成等補助金及びコミュニティ助成事業(地域防災組織育成事業)を活用しながら、一つでも多くの組織の立ち上げに取り組んでいきます。

第 11 回村民との意見交換会及び議会報告会

文教厚生常任委員会

神谷嘉栄、城間真弓、與那覇徳雄、仲眞朝雄、山城正輝、國吉雅和

対象：わんぱく広場（7自治会）

日時：平成30年11月12日（月）午後7時

場所：読谷村文化センター講座室 参加者：23名（自治会長5名）

テーマ：わんぱく広場に関する現状と課題

質問1．最低賃金に見合った手当を求めることについて

回答．財源の確保や他市町村の状況を調査中です。

質問2．見守り隊不足のため確保に努めることについて

回答．これからも、引き続き努力をしていきます。

質問3．大添自治会の安全面が不十分である。

回答．大添わんぱく広場の分割及び見守り隊の増員を検討したいと思えます。

質問4．環境整備に予算をつけて

回答．現在の自治公民館施設を利用してのわんぱく広場を開催しており、新たな環境整備については、内容等の相談を受け検討したいと考えております。

質問5．状況把握及び相談にのってほしい

回答．これまで通り、状況把握及び相談に対応していきます。

質問6．子ども達の状況に合わせた保険加入について

回答．詳細について内容確認をさせていただき、今後検討していきたい。

質問 7. ボランティアに中高生の関わり

回 答. 平日については、学校帰りということで、厳しいとは思いますが、夏休みなどの際には関わっていただけるのであれば、異年齢交流などからも、各わんぱく広場でも調整してみたいと思います。

第11回村民との意見交換会及び議会報告会

建設経済常任委員会

長濱宗則、大城行治、上地利枝子、城間勇、比嘉幸雄、松田正彦

対象団体：読谷村商工会理事（11名）

日時：平成30年12月4日（火）午後3時

場所：むら咲きむら研修施設

テーマ①：読谷まつりに関する現状と課題

テーマ②：ふるさと納税に関する現状と課題

※読谷まつりについて

1. まつりに欠かせない飲食のテナントが減少している。その理由として人材確保が厳しい状況がある。今後、まつりのテナントの在り方についてどう対処していくか、又、協力業者も高齢化、若手不足で深刻である。

（回答）商工会と意見交換し課題解決していきたい。

2. 台風、雨天等で祭りを中止せず、予備日を設けられないか。

（回答）提言として受け止め、祭り実行委員会で検討したい。

3. 野外スタンドや進貢船等の老朽で今後の対策は

（回答）提言として受け止め、祭り実行委員会で検討したい。

4. 親子で遊べる広場の確保はできないか。

（回答）提言として受け止め、祭り実行委員会で検討したい。

※ふるさと納税について

1. 納税額を増やすために担当係を確保し、指導的に読谷村のアピール及び返礼品の開発を進めてもらいたい。

(回答) 現在の体制を継続していきたいと考えています。

2. 寄付者のニーズは物から体験型へと兆候がみられる。村内の素材は豊富である。観光・体験・滞在型の商品が増えてくると予想されるので早期に商品開発ができないか。

(回答) 地域振興協議会の中で検討しています。

3. 特別職・行政職員・県内外に出向くときに名刺等でふるさと納税をアピールしてもらいたい。

(回答) 今後、検討していきます。(一部の職員は実施済み)

4. 村の5割収入を4割にし、1割で情報発信の費用にできないか。

(回答) 現在でも、委託費で情報発信しており、増額は考えていない。情報発信の充実としては、ポータルサイトを新規に追加することは今後、予定していきます。